

発表会を通して子どもの育ちを考える

－「観せる」発表会から「創る」発表会へ－

北海道地区：丸谷雄輔・鹿谷梢（札幌ゆたか幼稚園）

高橋真由美（藤女子大学）

<発表主旨>

「発表会」は、子どもの育ちを保障する場であることに加え、「保護者に観てもらう」場であるという側面も持ち合わせている。そのため、保育者の意識が「観せること」向き、発表会へ向けての取り組みの過程よりも、当日の出来栄を重要視してしまうことも起こりうる。本発表では「観せる」ことよりも子ども達と「創る」ことに重きをおいた発表会への一連の取り組みを紹介する。その上で発表会という行事における子ども達の育ちとそれらを支える保育者の役割について考えていきたい。

1、札幌ゆたか幼稚園の教育課程と行事

（1）札幌ゆたか幼稚園の概要 ～教育理念・規模や環境

（2）札幌ゆたか幼稚園と行事「発表会」

行事「発表会」に対する意識の変容過程

教育課程や目指す子ども像における「発表会」の位置づけ

2、2018年度 年長クラスにおける「音楽劇」への取り組み

（1）発表会への取り組みの概要

発表会への取り組みとねらい／役と場面の設定／音楽劇を創作する過程

（2）取り組み過程に見る子どもの姿

第一段階：お話しつくりと役決め ～クラス全員で創り上げるための保育者の工夫とは

第二段階：役ごとの話し合いとイメージの共有

第三段階：全員で「創る」劇遊び

第四段階：「がんばろうの会」（総練習）とその後の取り組み

（3）取り組みから見えたこと・保育者の役割

リアルな追求／子ども達の育ち合い／やり遂げることの意味／発表会後の姿

3、幼児教育における行事：発表会の意味とは

（1）子どもの育ちを中心においた発表会の取り組みからわかること

子どもの育ちの保障～個と集団の育ち…集団が育つ生活とは？ 年下の子どもへの影響

保護者との「育ちをみとる観点」の共有化の場としての発表会

発表会当日のプログラムの編成、発表会プログラムの作成の仕方などの工夫

（2）教育課程や目指す子ども像と「発表会」の位置づけ 保育者の役割を考える

発表会までの積み重ねがあることの重要性／保育者の観察力と見通し／時間の確保

園の雰囲気…子どもを信じ、子どもの「こうしたい」を叶える園の姿勢

「何を観せるか」から「どのような育ちを観てもらいたいのか」への転換

（3）実践研究の意味

経験の浅い教員への実践知の提供

ターゲット児の変化を追う研究の陥穽